



環境経営レポート

(対象期間: 2023年7月 ~ 2024年6月)



2024年 9月 11日

二一ニ一技研産業株式会社

本社、嵐山工場、川越工場

～ 目 次 ～

	ページ
1. 環境経営方針 3
2. 組織の概要、対象範囲、実施体制 4
3. 環境経営目標 6
4. 環境経営計画と実績 <2023年7月～2024年6月> 7
5. 環境経営目標結果の評価 8
6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画 10
7. 環境関連法規への違反・訴訟の有無 11
8. 代表者による見直し記録 12

1. 環境経営方針

1-1. 環境保全理念

- ・ お客様に愛され、地球環境にやさしい商品を創出、提供し、
楽しく豊かなアメニティライフを通し、健全な社会づくりに貢献します。
- ・ 社員の個性と能力を伸ばし、安全で働きやすい夢あふれる企業となり、
環境保全活動を通して、自然・地域と共生する企業を目指します。

1-2. 環境経営方針

当社は、環境負荷の低減が企業の社会的な責務であることを認識し、地球環境の保護・保全への取り組みを経営の重要課題の一つとして位置づけ、持続可能な循環型社会の形成と自然との共生社会を目指し、全社を挙げて下記の環境方針を定めて行動いたします。

- 2-1 私たちは、省資源、省エネルギー、リサイクル化の推進及び有害物質、
廃棄物、使用燃料の削減、節水等の環境保全、環境配慮製品など、
環境の改善活動に積極的に取り組みます。
- 2-2 私たちは、事業活動における環境目的及び環境目標を定め、全従業員が
一丸となって、活動の推進と継続的改善に努めます。
- 2-3 私たちは、日常業務や朝礼などを通じ、環境保全に対する従業員の理解と
意識向上のため、環境活動の定着に努めます。
- 2-4 私たちは、環境関連法規類を遵守し、地球環境の保全に努めます。
- 2-5 私たちは、地球環境に配慮した製品の開発及び設計に努めます。
- 2-6 私たちは、環境経営レポートを社内外に公表します。

制定日： 2007. 07. 30

改訂日： 2020. 01. 01

二一ニ一技研産業(株)

代表取締役 五十嵐 博之

2. 組織の概要、対象範囲、実施体制

2-1. 組織の概要

1.1 事業所名及び代表者名

二一ニ一技研産業株式会社
代表取締役社長 五十嵐 博之

1.2 所在地

本社 〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町11（鈴野ビル）
嵐山工場 〒355-0204 埼玉県比企郡嵐山町花見台10-9
川越工場 〒350-0833 埼玉県川越市芳野台2-8-74

1.3 環境推進代表者および環境管理責任者、連絡先

環境推進代表者 代表取締役 五十嵐 博之
環境管理責任者
連絡先 電話 :0493-63-0571 FAX :0493-63-1738

1.4 事業活動の概要

業種名 家具、装備品製造業（住宅設備機器）
事業内容 洗面化粧台用ミラーキャビネット、化粧棚、
流し台の部品、ユニットバスの部品の製造

1.5 事業の規模

設立年月 昭和41年（1966年）3月
資本金 2,500 万円
従業員数 35名 <内訳:本社5名、嵐山28名、川越2名>（2024年6月）
延床面積 全社 8,239 m²
(本社) (56)
(嵐山) (5,880)
(川越) (2,303)

2-2. 対象範囲 (認証・登録範囲)

2.1 認証・登録事業者

二一ニ一技研産業株式会社 本社、嵐山工場、川越工場

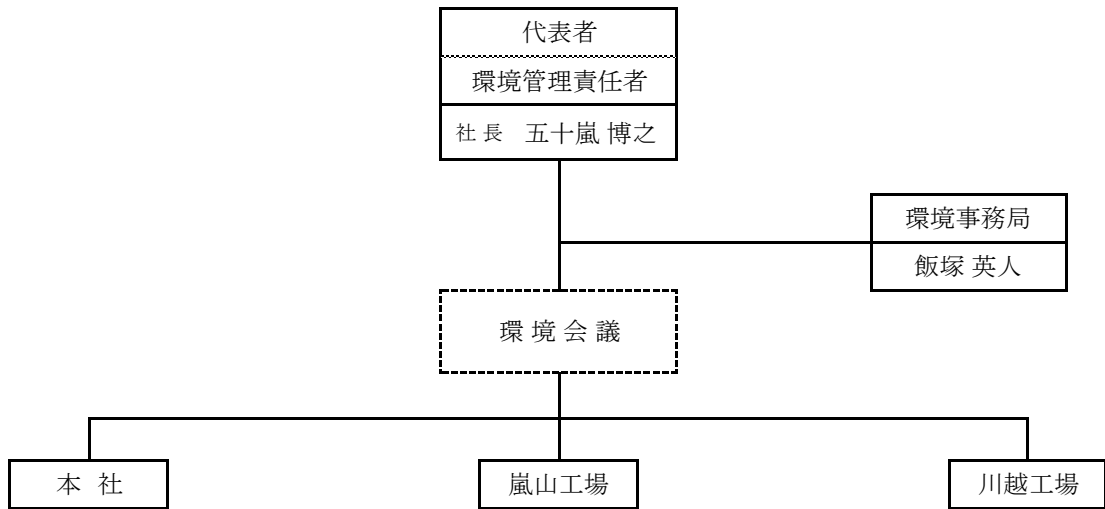
2.2 認証・登録番号

0002994

2-3. 環境活動単位

- ・ 環境経営レポート対象期間 ; 2023年7月～翌年6月を1活動単位とする。
- ・ 環境経営レポートの発行は原則的に9月末日を予定。

2-4. 環境経営実施体制



	役割、責任及び権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 ・環境経営に関する方針(環境経営方針)を定め、誓約する。 ・効果的で必要十分な実施体制を構築する。 ・各自の役割、責任及び権限を定め、全従業員へ周知する。 ・EA21を運用し、維持するための経営資源を用意する。 ・環境経営全体の取組状況及びその効果を評価し、以下の項目を含む総括的な見直しを実施し、必要な指示を行う。 ①環境経営方針、②環境経営目標及び環境経営計画、③実施体制
環境管理責任者 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への負荷と取組の状況を把握及び評価する。 ・環境関連法規などの取りまとめ、並びに遵守状況を評価する。 ・環境経営目標及び環境経営計画の策定、並びに達成状況・実施状況を評価する。 ・問題がある場合は是正処置、予防処置を実施する。 ・教育・訓練を実施する。 ・環境コミュニケーションを実施する。(内部、外部、環境経営レポート) ・環境上の緊急事態への準備及び対応をする。 ・緊急事態等の施行実施後及び発生後に、対応策の有効性を検証し、必要に応じて改訂する。 ・環境経営方針、環境経営目標を達成するために、必要に応じて手順書を作成し運用する。 ・文書類を作成・管理する。
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画の達成、並びに環境関連法規などの遵守に必要な取組を実施する。 ・環境経営方針、環境経営目標を達成するために、必要に応じて手順書を作成し運用する。

3. 環境経営目標

環境経営目標の設定にあたり、事業活動における環境負荷の調査から、地球温暖化の因子となす二酸化炭素の排出、特に影響のある電力消費量と廃棄物排出量の削減、持続可能な循環型社会の形成としてリサイクル化を促進して、更に省資源としての水使用量(排出量)の削減を主項目とします。

3-1. 環境負荷の状況

(本社と工場の合計)

項目	単位	51期 2021年度(基点)	
二酸化炭素排出量	kg-CO2	296,901	
電力消費量	kWh	733,681	
化石燃料	灯油使用量	L	640
	LPG 使用量	kg	81
	ガソリン、軽油 使用量	L	2,341
廃棄物排出量	kg	58,122	
水使用量	m ³	1,032	

2022年7月公表「電気事業者別排出係数」引用

3-2. 環境経営目標

項目	単位	基点年度 51期 2021年度(実績)	目標			
			53期	54期	55期	
二酸化炭素排出量 (削減率)	kg-CO2	295,056	293,600 △0.5%	292,100 △1.0%	290,600 △1.5%	
電力消費量 (削減率)	kWh	730,461	726,800 △0.5%	723,200 △1.0%	719,500 △1.5%	
化石燃料	灯油使用量	L	640	—	—	
	LPG 使用量 *1)	kg	81	—	—	
	ガソリン、軽油使用量	L	2,157	2,100 △0.5%	2,100 △1.0%	2,100 △1.5%
廃棄物排出量 (削減率)	kg	57,847	57,300 △1.0%	56,700 △2.0%	56,100 △3.0%	
産廃リサイクル化率	%	68.0%	69.0%以上	70.0%以上	71.0%以上	
水 使用量(排水量) (削減率)	m ³	1,032	1,000 △1.0%	1,000 △2.0%	1,000 △3.0%	
成形工程、省資源化への取組 (削減率)	%	2.59%	2.56% △1.0%	2.54% △2.0%	2.51% △3.0%	
環境配慮製品の情報収集とその反映	回	2回以上 (2回)	2回以上	2回以上	2回以上	
環境保全及び地域とのコミュニケーション	回	2回以上 (2回)	2回以上	2回以上	2回以上	
近隣苦情の防止	件	0件	0件	0件	0件	
本 社 EA21 活動の 推 進	項目	単位	51期 2021年度(基点)	53期目標△1.0%	54期目標△2.0%	55期目標△3.0%
	二酸化炭素排出量	kg-CO2	1,845	1,827	1,808	1,790
	電力消費量	kWh	3,220	3,188	3,156	3,123
	OA用紙消費量	kg	130	129	128	126
	廃却ゴミ量	kg	145	144	142	141
ガソリン使用量	L	184	182	180	178	

目標設定について

*1) 灯油及びLPGは、応急的な金型加温用及び給湯(川越のみ)の為、2012年以降は実績収集に留める。

5. 環境経営目標の実績と結果の評価

5-1. 環境経営目標の実績、評価

項目	単位	51期 2021年度 (基点値)	53期 目標	53期 実績	目標に対する評価	
			目標値	実績値		
二酸化炭素排出量 (削減率)	kg-CO2	295,056	293,600 △0.5%	218,391 △25.6%	○	
電力消費量 (削減率)	kWh	730,461	726,800 △0.5%	680,494 △6.4%	○	
化石燃料	灯油使用量	L	640	—	—	—
	LPG 使用量	kg	81	—	—	—
	ガソリン、軽油使用量 (削減率)	L	2,157	2,146 △0.5%	1,364 △36.4%	○
廃棄物排出量 (削減率)	kg	57,847	57,300 △1.0%	42,076 △26.6%	○	
産廃リサイクル化率	%	68.0%	69.0%以上	71.7%	○	
水 使用量(排水量) (削減率)	m ³	1,032	1,030 △0.5%	1,074 +4.3%	×	
成形工程、省資源化への取組 (削減率)	%	2.59%	2.56% △1.0%	3.59% +40.0%	×	
環境配慮製品の情報収集とその反映	回	2回以上	2回以上	3	○	
環境保全及び地域とのコミュニケーション	回	2回以上	2回以上	3	○	
近隣苦情の防止	件	0	0	0	○	
本 社 EA21 活 動 推 進	二酸化炭素排出量 (削減率)	kg-CO2	1,845	1,827 △1.0%	1,684 △7.8%	○
	電力消費量 (削減率)	kWh	3220	3,188 △1.0%	3,759 +17.9%	×
	OA用紙消費量 (削減率)	kg	130	129 △1.0%	125 △2.9%	○
	廃却ゴミ量 (削減率)	kg	145	144 △1.0%	150 +4.5%	×
	ガソリン使用量 (削減率)	L	184	182 △1.0%	117 △35.8%	○

53期 の実績評価方法について

- ① 上記環境項目の削減目標については基点年度を、2018年度から2021年度へ変更した。
- ② 灯油及びLPG使用については使用目的が限定的で使用頻度や温度状況によって差があるため、評価対象から外した。
- ③ 産廃リサイクル化率は、総廃棄物量における再生利用量の割合とした。
- ④ 環境保全活動への参加は、工業団地内の道路清掃及び構内の周辺清掃(除草作業)をメインとしている。
- ⑤ 全社二酸化炭素排出量(53期) ⇒ **220,319 kg-CO2**
(工場二酸化炭素排出係数 ⇒ 0.316 kg-CO2/kWh)、(本社二酸化炭素排出係数 ⇒ 0.376 kg-CO2/kWh)
2024年7月公表「電気事業者別排出係数」引用

5-2. 環境経営目標結果の評価

1) (1) 省エネ・二酸化炭素排出量の削減

- ① 目標達成状況 ; 目標△0.5%に対し、実績△25.6%と、目標を大幅にクリア出来た。
- ② 要因分析 ; 生産縮小に伴い、電力消費量が減少した為。

(2) 電力消費量の削減

- ① 目標達成状況 ; 目標 △ 0.5%に対し、実績△ 6.4%と、目標をクリア出来た。
- ② 要因分析 ; 残業時間の抑制により、空調稼働時間の短縮が図られた。

2) 廃棄物排出量の削減

- ① 目標達成状況 ; 目標△ 1.0%に対し、実績△ 26.6%と、目標を大幅にクリア出来た。
- ② 要因分析 ; 納品梱包材の簡易化及び生産品種変化(小型品から大型品へのシフト)による品質の向上により返却される製品が減ることによって、廃棄部品も減った。

(1) リサイクル化の推進

- ① 目標達成状況 ; 産廃リサイクル化率の目標 69.0%以上に対し、実績 71.7%と目標値達成。
- ② 要因分析 ; 成形廃材をリサイクルできるように工夫したことで目標を達成できた。

3) 総排水量(使用量)の低減

- ① 目標達成状況 ; 目標△ 0.5%に対し、実績 4.3%と、目標を未達。
- ② 要因分析 ; 成形設備のクーリング頻度が増加し、冷却水使用量が増えた為。

4) 成形工程、省資源化への取組(不良削減)

- ① 目標達成状況 ; 目標△ 1.0%に対し、実績 40.0%と、目標値を大幅に超える。
- ② 要因分析 ; 機械的な要因が多く、メンテナンスや修理が今後の課題となる。

5) 環境配慮製品の情報収集とその反映

- ① 定期的な社内打合せを実施し、外部情報の収集に努めた。

6) 環境保全及び地域とのコミュニケーション

- ① 地域工業会の春季・秋季の一斉清掃デー、調整池巡回など諸活動への参加。
- ② 工場建屋外周りの樹木伐採、構内の清掃実施。

7) 近隣苦情の防止

- ① 作業環境測定、消防設備の点検及び修理など、各種設備点検を定期的に行い予防に努めた。
- ② アイドリングストップの実施 (駐車場利用の協力会社及び全従業員への周知)

活動の評価

廃棄物のリサイクル化率以外の項目は、残業の抑制・生産数変化・機器稼働の適正化などにより、目標を達成もしくは目標との差が僅かであった。リサイクル化率が目標値未達については、海外での受入れ困難な状況を踏まえると今後も目標達成に対して視点の切り替えが必要と考える。

次期の目標達成に向けて、計画を継続的に進めていく。

6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

- * 55期まで環境経営目標の基点は、51期(2021年)実績値とする。
- * 嵐山/川越サイトの二酸化炭素排出係数は、0.394kg-CO2 (2022年7月公表「電気事業者別排出係数」引用)
- * 本社サイトの二酸化炭素排出係数は、0.441kg-CO2

代表者/管理責任者	作成者
五十嵐	飯塚英
2024年8月6日	2024年8月6日

No.	環境経営目標	目標値		方策	責任者
		基点： 51期(2021年度)実績	54期 (2024年度)		
1	嵐山/川越サイトEA21活動 省エネ・二酸化炭素排出量の削減	295,056 (kg-CO2)	292,100 (kg-CO2) △ 1.0 %	<ul style="list-style-type: none"> 不要電力の消灯、定時退社の推進 照明LED化の推進 空調機の負荷低減として、建物の断熱・遮熱の施工の検討 エネルギー消費の大きい機械の稼働調整を行いピークデマンド値を抑制する 空調機フィルターの清掃 最適(環境とコスト)な電力契約プランの検討 	五十嵐 大室/保田 野原/田中貴
	○ 電力消費量の節減	730,461 (kWh)	723,200 (kWh) △ 1.0 %		
2	廃棄物排出量の削減	57,847 (kg)	56,700 (kg) △ 2.0 %	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の分別活動継続と排出の抑制 廃棄物 再資源・再利用化の推進 発注部材品の梱包材の簡素化の推進。 集約印刷、両面印刷の活用 ペーパーレス化の推進、スキャナー活用 	五十嵐 工場 全部署
	○ 再資源、再利用化(リサイクル率)	68.0 %	70.0 %以上 2.0 %増		
3	総排水量の低減 (給水量)	1,032 (m ³)	1,020 (m ³) △ 1.0 %	<ul style="list-style-type: none"> 節水及び漏水発見活動の継続励行(日常的な節水の励行) 過使用時の早期原因把握と対処(水道メーターの検針、記録) 	工場 全部署 野原/田中貴
4	成形工程、省資源化への取組 (不良率削減)	2.59 (%) 成形品不良率	2.54 (%) △2.0%	<ul style="list-style-type: none"> 年間のデータ測定を行い、そこから削減目標と施策を決定 	野原 田中貴
5	環境配慮製品の情報収集と その反映	提案件数: 2件	環境負荷低減品の 検討と開発	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷削減調査(省エネ、省資源、軽量。包装、仕様etc) 部品点数の削減 分解性の高い設計 製品梱包の緩衝材をプラスチックから段ボール系に転換 再資源化可能な材料を用いた部品の積極採用 <p style="text-align: right;">< 検討会の実施 ></p>	飯塚隆/ 杉本/三浦
6	環境保全及び地域との コミュニケーション	実績: 2回	2回以上/年	<ul style="list-style-type: none"> 行政・地域の環境保全活動や研修会への参加 構内及び周辺(社外)清掃の実施 地域イベント(祭り)への参加 	大室/ 内川/飯塚英
7	近隣苦情の防止 (苦情件数)	実績: 0件	0件	<ul style="list-style-type: none"> 定期監視(騒音、振動、悪臭) (予防・発生源対策の推進) 	五十嵐 各該当部署
8	本社サイトEA21活動	基点: 51期(2021年度)実績	各項目基点比 △ 2.0%	<ul style="list-style-type: none"> 不要電力の消灯、定時退社の推進 空調機フィルターの掃除、扇風機/サーキュレータの活用検討 スキャナー活用でペーパーレス化(配布資料の削減) ミスコピー、プリントミスの削減、物品購入時の簡易包装のお願い実施 エコドライブの推進(急発進、急ブレーキ、車間距離、エアコン温度、省エネ運転の心がけ) 	飯塚隆/ 富永
	・二酸化炭素排出量	1,845 (kg-CO2)	1,808 (kg-CO2)		
	・電力消費量	3,220 (kWh)	3,156 (kWh)		
	・OA用紙使用量	130.3 (kg)	127.7 (kg)		
	・廃却ゴミ量	145.0 (kg)	142.1 (kg)		
・ガンリオン使用量	184 (L)	180 (L)			

7. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

7-1. 環境関連法規

環境関連法規	要求事項	確認状況	評価
廃棄物処理法 ＜廃掃法＞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の収集運搬処理業者の委託基準 ・ 廃棄物の適正処理 ・ マニフェスト管理票の保管(A票含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業廃棄物処理業者の許認可証確認 ・ 産業廃棄物管理票の交付と処理票確認 ・ 廃棄物マニフェスト管理票の保管状況確認 	○
大気汚染防止法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 揮発性有機溶剤の排出、飛散、抑制措置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業環境測定実施報告書にて確認 ・ 保管庫の施錠確認 	○
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規制基準の遵守義務 朝、夕 65 dB以下 昼間 70 dB以下 夜間 60 dB以下 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生源(圧縮機)周辺の機械騒音測定でクリア → 報告書確認 	○
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規制基準の遵守義務 昼間 65dB以下 / 夜間 60dB以下 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圧縮機の防振対策状況確認、異常なし 	○
毒物劇物取締法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盗難防止、文字の表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毒物、劇物の文字表示確認 ・ 保管貯蔵所の施錠状況確認 ・ 購入および使用実績の日常点検簿確認 	○
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務用空調機器の適切な管理 ・ 漏えいの対処 ・ 点検等の記録保管 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡易点検の記録簿確認 ・ 有資格者による点検の実施(15kW以上) 	○
特定家庭用機器再商品化法 ＜家電リサイクル法＞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄時における家電品の運搬業者等への適切な引渡し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷蔵庫、洗濯機、テレビの処分時は指定リサイクル業者へ委託 	○
労働安全衛生法 ＜有機溶剤中毒予防規則＞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業環境の安全と健康の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働者への注意事項等の掲示確認 ・ 有機溶剤作業主任者の選任 ・ 作業環境測定及び健康診断の実施 	○
消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険物貯蔵施設の維持・管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少量危険物貯蔵所の出入庫記録簿と購入実績、実在庫の確認 	○
環境教育推進法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境保全意欲の増進及び環境教育 ・ 情報の積極的な公表等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション簿 ・ 環境活動レポートの設置(事務所) 	○
地球温暖化対策推進法 ＜温対法＞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温室効果ガスの排出抑制とその排出量が少ないものを製造 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テマント監視装置による電力使用の制御 ・ 空調設定、節電等の各箇所表示 ・ 生産品への省エネ部品の採用拡大 	○
循環型社会形成推進法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3Rへの努力と適正な処分 ＜順位＞ 1) 再利用(Reuse) 2) 再生利用(Recycle) 3) 拒否(Refuse) 4) 処分(Disposal) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の分別実施と廃棄実績の確認 	○
埼玉県生活環境保全条例	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイドリング・ストップの実施(駐車場の利用者への周知) ・ 特定化学物質等取扱量の把握と報告(年間取扱量が500kg以上の場合、知事に報告) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイドリング・ストップ 表示板 設置確認 ・ 新規採用時に周知継続 ・ 化学物質等の取扱量報告書確認(メタノール ⇒ 500kg未満) 	○

7-2. 違反・訴訟の有無

53期(2023/7月～2024/6月)は関係当局からの立入査察の他、近隣地区からの指摘、苦情、訴訟等の連絡も無く、環境関連法規の違反もありません。

8. 代表者による見直し記録

作成日 2024年 8月 8日

作成者 EA21事務局 飯塚英

8-1. 見直しのための情報

見直し概要	見直し実施区分	定期	随時	管理責任者
	情報の提供者	EA21事務局 飯塚 英人	—	
	見直し者	代表取締役 五十嵐 博之	—	五十嵐
見直し実施日	情報の提供日	2024年 8月 5日		
	見直し実施日	2024年 8月 6日		
情報項目 及び 評価・課題	1 環境関連法規等の遵守状況 各要求項目とも遵守出来ていると評価します。			
	2 環境経営目標の達成状況 工場部門のリサイクル率が未達成以外は目標を達成。成形シート材の不良改善でリサイクル量が相対的に減少しているのので一概に悪いとは言えない状況であります。			
	3 問題点の是正・予防処置の結果 環境予防処置として計画していた、消防訓練は予定通り実施することが出来ました。			
	4 外部からの苦情・要望に対する結果 5 3期(2023/7月～2024/6月)は関係当局の立入査察等はありません。			
	5 社会・取引先・法規制等の外部動向 化学物質把握促進法、埼玉県生活環境保全条例の改正がありましたが、工場での取扱い物質把握量は対象外になります。			
	6 環境経営システムの有効性及び妥当性 目標遂行に支障無く、システムの有効性は保たれていると判断致します。			
	7 その他(課題のための施策など) 目標管理の為にデータ集計を日々行っているが、精度向上と工数削減の相反する課題に対しての対策が必要と考えます。			
情報提供上の総評	・電力使用のピークデマンドを下げる策が必要と考えます。			

8-2. 代表者による見直し内容

見直し・変更の必要性有無	代表者によるコメント	代表者
1. 環境経営方針 (必要) <input checked="" type="radio"/> 不要	特になし	五十嵐
2. 環境経営目標・計画 (必要) <input checked="" type="radio"/> 不要	特になし	
3. 社会・取引先・法律等への対応 (必要) <input checked="" type="radio"/> 不要	特になし	
4. 実施体制・その他 (必要) <input checked="" type="radio"/> 不要	特になし	